

憲法を生かす 朝日訴訟のたたかい

(第3種郵便物認可)

人間らしい暮らしを送れない生活保護費は違憲だとして岡山県の重症結核患者、朝日茂さんが1957年8月12日、国などを相手取り東京地裁に提訴してから60年がたちました。「人間裁判」とも呼ばれた朝日訴訟のたたかいは、日本国憲法を暮らしに生かす原動力を築き上げました。(倉井由紀)

「日本国憲法は国民の生活と権利を守る誓(ちかひ)のできである」。朝日さんは自身の手記のまえがきに、こうつづけていました。朝日訴訟は、憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」「生存権」とは何かを問うたものです。

人間としての生活
東京地裁(浅沼武裁判長)は60年10月19日、朝日さんの訴えを全面的に認める判決を出し、「健康で文化的な生活水準」とは、「国民が単に辛うじて生物としての生存を維持できるという程度のものであるはずはなく、…人間としての生活」というもの、だとしました。

朝日訴訟の会事務局長の川谷宗夫さんは「判決は、病気がけ
元裁判官、小中信さん
の筆で「裁判官手書き原稿」



憲法を生かす

朝日訴訟のたたかい

「日本国憲法は国民の生活と権利を守る誓(ちかひ)のできである。しかしその誓は闘いなしに実現することはできない」。憲法25条「生存権」が保障する「健康で文化的な生活水準」を裁判で問った朝日茂さんは手記で、こう述べています。

朝日訴訟は、憲法を現実化させるたたかいでした。多くの市民を動かしただけでなく、今の運動にも思っています。

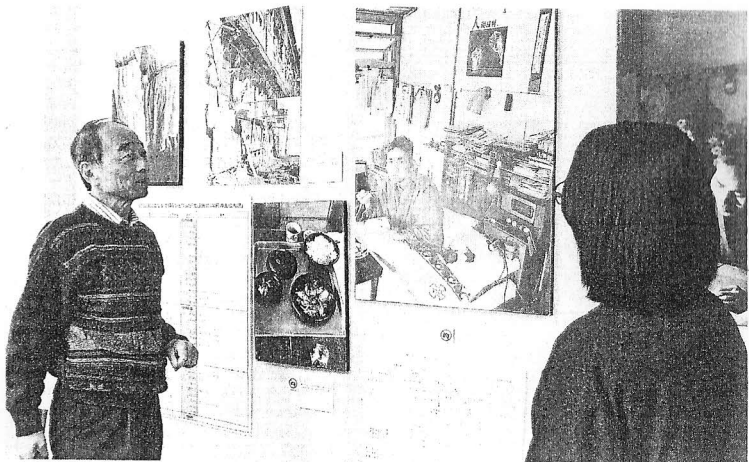
女性「解放」に影響

朝日さんの死後、ある女性

は朝日訴訟現地対策委員云に、このような手紙を送りました。「国民の税金で

がで働けない人、障害がある人などどんな人でも、それぞれの生活自体に、『健康で文化的な生活』と言いきる要素がなければならぬと言いつづけているのです」と評価します。

「重い責任」裁判官の述懐



朝日訴訟記念展示室で語る朝日訴訟の会事務局長の川谷宗夫さん(左)＝岡山市

保護基準が違法と判断するほど不当に低すぎるかを判断するための検討にあたり、「憲法25条水準」は、「人間に値する生存」を満たすものでなければならぬことを念頭に置きました。

「(当時)は控訴し、東京高裁は、朝日さん敗訴の判決を出しました。審理が最高裁に移った後、朝日さんの体調が悪化。64年2月14日、朝日さんが亡くなる直前に小林健三さん、君よさん夫妻が養子に入籍し、訴訟を承継しました。

「今日の社会保障の権利は、朝日訴訟をはじめとする国民の長年の努力のうえに築かれたものであり、保護基準は『健康で文化的な最低限度の生活』の『もさし』であって、決して安易に手加えられてはならないものです」

障費大幅削減の予算を組みました。国立岡山療養所にいた朝日さんら結核患者にもその波が襲いました。これに対し、患者は病気を抱えて立ち上がりました。

「私たちが社会保障予算を闘い闘うことは、戦争に反対する闘いに連なるものであり、平和を守り、民主主義と憲法を守る闘いでもある」と朝日さんは記しています。

総評(白土労働組合総評議会)本部、朝日訴訟を支援した公文昭夫文などは「朝日訴訟は憲法前文が示す『平和の生存権を追求するたたかいでもありました』と評価します。

精神は引き継がれ「人権としての社会保障」を求める運動の原点となった朝日訴訟。その精神



「憲法は国民のもの 皆で守ろう！」などと書かれた寄せ書きが残っています。多くの方がわがこととして訴訟運動に参加しました



は引き継がれ、現在、生活保護基準引き下げは違憲だとして、全国で千人近い人たちが原告として立ち上がっています。「いのちのとりで裁判」です。同裁判を支援する「全国アクション」共同代表の井上英夫金沢大学名誉教授は「人権は、官僚や政治家が与えたものではない。民衆がたたかい取ってきたものだ」と指摘し、憲法97条(基本的人権の本質)の重要性を指摘します。憲法12条(自由・権利の保持義務)と併せて、「私たちがたたかうことは人権で、たたかい勝ち取った人権は断続の努力で守らなければならぬ」と強調します。朝日さんと、養子縁組して訴訟承継した健三さんがたびたび口にしていた言葉があります。「権利はたたかう者の手にある」

「国民の権利意識の高揚を図り法廷内外で勝ちたい。そして、朝日訴訟の旗を高く掲げて、社会保障を推進したい」。2015年10月に亡くなった健三さんは生前、訴訟継承の思いを語っています。しかし、最高裁は67年、朝日さん死去で訴訟終了としました。

制度基準引き上げ

健三さんは、朝日訴訟運動で国民が獲得したものと、次の三つを挙げています。

第1は、国民が憲法25条の存在とその意義を知って生きる希望を見いだした点。第2は、社会保障運動、社会保障裁判の前進です。第3として、朝日訴訟が保護基準引き上げのきっかけとなり、連動して社会保障給付や最低賃金、課税基準などさまざまな制度の基準が引き上げられました。

健三さんはたたきこぼす強調していました。